



発行所 東京薬科大学 八王子市堀之内 1432-1 0426(76)5111

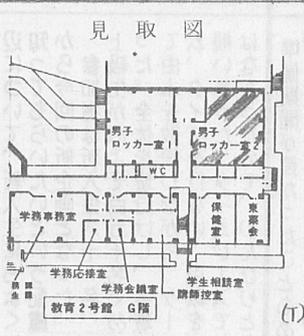


ロッカー室移動

有効利用をめざして

今年、男子ロッカーの一部が入れ換えられた。この春まで卒業生が使っていた2段のロッカーが撤去され、新たに3段のロッカーとなった。現在3段のロッカーを使用しているのは新一年生であり、今後は春ごとに順次入れ換えを計り、3年後には全ての男子ロッカーが3段に換えられる予定である。

男子ロッカー室は、図に示すように教育2号館のG階に2部屋向い合わせに位置している。かなりの広さをもっているため、今までの2段のものでは、ロッカー間に相当な空間の無駄がみられる。そこで段数を増やし、詰めて配列することにより、全ての男子ロッカーをロッカー室1に移動してしまおうという計画で行う。ただ、この作業が完了してしまつたため、4年生が卒業していく度に一年ずつ入れ換えるという方法を取らざるを得ない。



前期試験 どうなる!

教室主・印刷房化! 前期試験移行か?

本学では、前期試験を夏期休暇を挟んで9月に行っているが、他の大学に習い、前期試験を7月中に行う案が検討されている。このたび教育一号館、5講義室に冷房装置が設置。西側のG13等、7講義室全部が冷房可能となったがこれは暑い7月に試験を実施するための一つの布石とみることが出来る。

今年、男子ロッカーの一部が入れ換えられた。この春まで卒業生が使っていた2段のロッカーが撤去され、新たに3段のロッカーとなった。現在3段のロッカーを使用しているのは新一年生であり、今後は春ごとに順次入れ換えを計り、3年後には全ての男子ロッカーが3段に換えられる予定である。

一昨年度、東薬は文科の三年次から四年次への移行と、それに伴うカリキュラムの改定を行ったが、そのさい、大学側と学生側との意思の疎通が十分でなかったせい、かなりの混乱を招いた。その改善は、学生の目から見て、まず、4月の学内報にそれについて言及した教務部長の面談記事が載った後、11月発行のものに学長による改定案が掲載。にわかには信じがたい。

学生と大学側との折衝の末、2月、学生投票によって、実施の最終的決定をする、という経緯をたどった。まだ記憶に新しい事、やはりコンタクトが不十分であったとの反省からの配慮の現われとして、大学側は学生との懇談会等を通じて、前期試験、7月繰上げの可能性について触れてきている。繰上げの理由としては、主に、9月の試験が4年生の就

新入生 入部状況

学部	部名	人数
一	★美術	14
	★漢研	21
	★植研	14
	★生研	25
	★製剤	6
	★分析	15
	★有機	7
	★EES	14
	★映画研究	9
	★合唱	13
二	★ギター	4
	★軽音	3
	★JAZZ研	8
	★独研	7
	★ハルモニア	17
	★美術	11
	★やまもの	4
	★写真	2
	★空手	6
	★剣道	7
★	★硬庭	7
	★ゴルフ	9
	★サッカー	6
	★自動車	3
	★スキー	10
	★卓球	5
	★柔道	1
	★バドミントン	8
	★バレーボール	10
	★野球	11
★ラグビー	6	
★陸上	4	
★フットサル	4	
★柔道	4	

★軟庭 4
★バドミントン 8
★バレーボール 10
★野球 11
★ラグビー 6
★陸上 4
★フットサル 4
★柔道 4

(数字の下段は女子数を表わす。)

入部状況は以上の通りである。各クラブとも今年の一年生に期待している様である。あるクラブでは、「礼と節を重んじて、節度ある行動をする」と、「初心者にも関係なく長く続けて欲しい」「また「先輩を越えて欲しい」「また「先輩を越えて欲しい」など、一年生に対する助言も見受けられる。



より派生する問題がないわけではない。大学設置基準の関係上、15週間分の講義を前期にこなすため、試験の分だけ4月の講義開始が早まることなど、校舎にいとまがない。

学生として、試験は避けて通ることの出来ない問題だけに、人任せではなく、自分自身で、考えて見る必要があるのではないか。(5)

薬味

例年より開花の遅れた桜も新宿から純行に乗って平山までやって来た。新入生もそろそろ東薬の生活に慣れ、新たな希望を抱き始めていることだろう。反面、俗にいう五月病ならぬ四月病にかかってしまい、毎日アパートの片隅で故郷の両親や友人の写真を穴があくほど見ている人もいるかもしれない。いづれにせよ、まだまだ長い四年間?の大学生生活のほんの一時を過ごしたにすぎないのだから、今は毎日の講義やクラブ活動等に励んで、一日も早く東薬生としての自分のペースを作りたい。

ところで、先日、東大生のボート転覆の新聞記事を見かけた。新歓行事の一環で山中湖で合宿をしていた東大生、それも上級生が酒に酔った勢いで、三人乗りのボートに六人も乗り込んで水が溶けたばかりの湖水にバランスをくずして転落、五人が死亡した。東大以来、学生の自治を学園紛争以来、学生に任せているという。今回の事故は、学生が自らの自治運営を軽視しすぎた惨事であり、まさに学生の認識不足が招いた結果であろう。更に、岸まで救助された学生を合宿に参加した誰もが人工呼吸すらできなかったという。かつて学んでいるはずの一般常識をいざ行動に移すことができない、頭でっかちの学生はいなかったか?というのことも実に悲惨である。東薬でも新歓期だけなら、上級生一人一人が自覚と責任を持って後輩に指導してもらいたいものである。昨年の東薬生意識調査で東大をライバル校とあげた学生が多かったという事実があるのだから、

新歓キャンペーン

特集！新歓



今年も恒例の新歓キャンペーンを皮きりに、各部門主催の新歓行事が行われて来ているが、以下はその記録である。

今年も、四月三日から五日にかけて、二泊三日の日程で新歓キャンプが行われた。例年の様に、北野大学で、ミネアハウスで行ったわけだが、今年は非常に参加者が多く、新歓実行委員のメンバは様々な苦勞を強いられ、たてであらう。謹んでねぎらいの言葉を贈る。しかし、振返って見て、一部に多少無理があったような印象を受ける。まず、時間の問題であるが、一日目はセミナーハウス側の都合で変更があったので、仕方のないことだが、自己紹介が不十分で名前がなかなか覚えられなかったという反省が、かなり上げられた。又、二日目の合同リクエションが、一時間開始予定であったが、昼食の時間割当てが、最後になつて十二時四十五分

なつたとか、入学前に友人も出来、試験のことなどについても聞くことができて良かった、などと語っていた。また、一番心配された事故もなく、新歓キャンペーンは、成功裏に無事その幕を閉じた。



オリエンテーション

去る4月15日に新入生歓迎行事の一環として学術部門主催で由木オリエンテーションが行われた。

当日は決して快晴とは言えなかつたが昨年のように雨に降られることも無く、楽しい一日を過ごした。

学術部門において昨年までは、高尾山ハイイクを行つたが、登山ではハイイクをするのにも限度があること、周りに他人がいること、大学周辺について、新入生にもよく知ってもらいたいという配慮から今回の新企画となった。

参加者は新入生六十一名、上級生がおよそ百五十名であった。全体を班分けし、各班で由木を散策しながら、ゲーム、クイズを行ない、点数を競いあつた。タイムレースではなかつたので、のんびりと

準備期間が長かつたこともあり、委員の方々がたつとては、キャンパスはあつたというまに終わってしまったのではないで

昨年年度とは役員も一新し、新たな気持ちで望んだ新歓キャンペーンでしたが、反省点をあげるときりがありませぬ。11月に新歓実行委員会を発足し、キャンパス「サルバルサン」の発行を担当する本部企画会なるものを行ない、企画を立て春休みに入りまし。春休みのほとんどを準備期間に費やし、いざキャンパス！

止歩け歩け大△△

今月、4月29日(日)、新歓行事の一つである、文化部門担当の「止歩け歩け大会」が行われます。

途中、ゲーム、クイズなど楽しい催物がいっぱいあります。皆さん奮って参加して下さい。

歩いてくることができことは良かったであろう。

オリエンテーションの進めかたであるが、各班に地図を配り、その各々に十ヶ所のクイズポイントと五ヶ所のゲームポイントとを与えてあつた。クイズはノート大の板に書いてあるものだったが、それを捜すのは、結構大変で、草むらの中や、電柱にかけてあつたりと、スタッフの方々の苦労がうかがえるものであつたし、とちクイズ等趣向を凝らしたものであつた。

又、ゲームは班員の名前、二人三脚でのリレーと、なかなか凝つた企画であつた。

集合場所である大学に戻つたのち、恒例の尻相撲を行ない、各班の順位を決定した。最後は、たにし踊りと、応援歌で締めくくつたが、今回初めて行つた企画としては、十二分な成果をあげられたであらう。

今恥ずかしく思う次第です。参加された新入生の皆さんには、毎年、感想文を書いて貰つていますが、ほとんどの文章、新入生にとつてどうだったんだろうという、我々の気持ちや、なだめるかのように、色々なことを書いてくれました。

最後に、来年度の本部企画委員の方々は、我々と同じ反省を出さないように、頑張つて下さい。

建石茂光・新歓実行委員長

集合時間 10時

集合場所 関戸橋の下の公園

雨天の場合は、中河原駅で指示を受け、多摩動物公園へ行くこととなります。

4月18日、都空棟、G階ホールにおいて、学生駐車許可証交付該当者の第一次発表が行われた。この発表で93台分の駐車許可証が認可された。交付の基準は、学校からの距離、他の交通機関より便利なこと、学年等で決定した。交付名簿を見てみると、交通の不便な、神奈川県、相模原市、伊勢原市、川崎市横浜、市、埼玉、所沢市、入間市(3名以上)などの地域からの交付と、柚木在住の4年生への交付が目立つ。

交付に際して担当者ほとんかに

立日 塚木 奴 立

さる四月十二日木曜日、文化部門主催による「音楽祭」が一一一講義室で開催された。各部門によるイベントのうち、最初におこなわれるものだけにあって、新入生達は各クラブの特色を知る意味で大いに役立ったようだ。

現在十四のクラブが所属している文化部門の内、この日参加したのは、音楽系統の五つのクラブ。参加者は上級生も含めて六、七十人程度と三百六十もの座席を持つ一一一講義室では少しさびしすぎる人数ではあつたが、とても濃い内容のものであつた。この音楽祭で入部を決意した新入生も少なくないようだ。

部門関係者も一今年は、まあまあ出来たが、しかし不十分どころがあれれば、ほとんど改善して来年はもっとすばらしい「音楽祭」にした

許可証裏面注意事項を熟読してほしいと述べた。特に、①所定の場所への駐車、②学内違法駐車(都空棟周辺など)の禁止、③大学主催の交通安全講習会への出席遵守してほしいとのことだ。つけ加え、じの植え込み保護のため、排ガスのかからないように車を頭から入れて欲しいとのことだ。

一次発表において交付にもれた人でも、自治会室で面談した人には交付されることがあるので必ず行ってほしい。

新聞会では東葉周辺の交通問題全般について機会がある度に取上げて見ようと思う。

四月十四日、一一一講義室において、学術研究発表会が行われた。この学術研究発表会は、新入生に各学術系クラブの研究内容について知ってもらう為に行つていものである。

発表にOHP、スライドを多用し今までの堅いイメージをなくす為、一年生に興味を持って貰う為、今年にはクイズを取り入れたことは、効果があつたと思う。予想以上に多数の新入生が参加したそう

各クラブの発表内容も充実したものだった。来賓の方々、及び、新入生に投票してもらい決定した順位は次の通りである。

当子術部 部長 三原 貴典 40票

漢方研究会 40票

第一一位 40票

生化学研究会 34票

第二二位 34票

衛生裁判化学研究部 33票

学術研究部 40票

立日 塚木 奴 立

